

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2年 3 月 9日

事業所名 障害児通所支援事業 ふらわーず

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6		・法令を遵守したスペースを確保している。	・定員10名だが、利用人数が多い場合、発達段階、年齢等に分けグループ活動を行うなど、工夫している。
	2	職員の配置数は適切である	6		・法令で必要とされている配置数に加え、保育士、又は、児童指導員を配置している。	・毎日の職員配置は、4～5名としているが、急な会議・研修等で職員人数が減った場合、第一に利用者の安全を確保し、活動内容等の変更を行って対応。 ・職員同士の特性を把握しつつ、お互いにカバーし連携しやすい環境になっている。また、職員間の連携が徹底され、朝や空いた時間などの【報・連・相】がなされ、コミュニケーションが図りやすい環境、掲示物になっている。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5	1	・階段が多く、風呂・トイレは狭い。	課題)手すりなどの設置はあるが、重度の障害のお子さんを預かるだけのバリアフリー化は出来ていないし、それだけの事業所のスペースを確保することは、難しい ⇒改善点:今の所、重度のお子さんの受け入れに関しては、保護者に見ていただいた上で、事業所を選んでいただいている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6		・毎日の清掃、洗濯で清潔感の徹底。活動内容と発達段階に応じた活動場所の変更を行っている。	・現在、事業所以外の活動場所として、地域の児童館を利用させていただいているが、それ以外の場所も今後、開拓しながら、地域との繋がり、交流もしていきたい。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	1	・ミーティングを行いながら、全職員の意見を反映。	・職員ミーティング等で、PDCAサイクルを把握し、実際の支援に置き換えながら実行し、再度、評価している。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6		・文母云において、保護者に説明を行う。前年度は、事業所評価結果を全保護者に配付した。	・自己評価もだが、事業所の活動については、その都度、アンケートを行い、保護者と内容の共有を行っている。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	1	・HPにアップして公開している。HPを見られないご家庭の為に、事業所評価結果を印刷して各ご家庭に配付している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	3	・外部評価は行っていない。	・今後の検討課題。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6		・年に3～4回、事業所で独自の研修を実施。また、事業所外の研修も積極的に参加している。	
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6		・年に2回、個別支援計画を作成し、面談を行っている。その中で、子どものニーズと保護者のニーズを拾い上げ、再度、個別支援計画の見直しを行っている。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	1	・独自のアセスメントツールを作成し、使用している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5	1	・児童発達支援計画を独自の『思い実現プラン』と称し、本人との面談の上、保護者からの要望も考慮しながら、具体的な支援内容を設定している。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5	1	・児童発達支援計画を独自の『思い実現プラン』と称し、本人との面談の上、保護者からの要望も考慮しながら、具体的な支援内容を設定している。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	6		・事業所のミーティングの中から、活動の内容を出し合い、細かい流れについては、各担当に任せ役割分担をしている。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6		・月の予定表を作成し、活動を行っている。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	6		・お子さんのニーズに合わせた個別活動、集団活動を行っている。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	5	1	・集団活動(レクリエーションなど)の流れを職員間で読み合わせし、共通理解のもと、活動に取り組んでいる。	
	18	3	3	・支援した当日でなく、次の日に行っている。	
	19	6		・日々の支援記録を徹底し、支援の検証・改善に繋げている。	
	20	6		・年に2回、モニタリングを行い、保護者には、面談でその旨を伝えていく。	
関係機関や保護者との連携	21	6		・サービス担当者会議には、児童発達支援管理責任者とその子どもの担当も一緒に参画している。	
	22	6		・必要に応じて子育て支援等の関係機関と連携している。	
	23	5	1	・医療的ケアの必要なお子さんを受け入れていない。	・今後の検討課題。
	24	4	2	・看護師常駐でないため、現在、受け入れが難しい。	・今後の検討課題。
	25	6		・保育所等への送迎の際、情報の共有をしている。また、会議などへは、積極的に参加し、他事業所間との連携に努めている。	
	26	6		・必要に応じて関係機関との情報交換を行っている。また、事業所側からの移行支援会議の発信もしている。	
	27	4	2	・児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の研修に、職員を積極的に参加させている。	
	28	2	4	・活動の中で、地域の児童館利用などを行っているが、事業所が計画しての交流活動は、まだない。	・今後、利用者と共に、地域の活動に積極的に参加し、事業所発信の催しへと発展させていきたい。
	29	2	4	・連絡があった場合、積極的に参加している。	
	30	6		・連絡帳を作成し、その日の出来事を細かく伝えている。	
	31	2	4	・保護者に対して、外部でのペアレント・トレーニング研修等がある場合は、案内を出している。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	1	・契約時に説明。	
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5	1	・「児童発達支援ガイドライン」については、保護者への説明は行っていないが、年に2回、個人面談時に児童発達支援計画の読み合わせを行い、事業所の活動等については、同意を得ている。	・個人面談の案内を出す、半数が来られない状況。事業所としてもご本人さんへの児童発達支援計画の上の、支援状況を知ってほしい。出来るだけ、面談に来ていただけるように徹底していきたい。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	1	・送迎時や連絡帳にて把握し、必要に応じて話を聞く機会を設けるようにしている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	2	・子ども達の活動報告と年間の行事予定など、父母会を開催。保護者同士のラインも作っている。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6		・苦情受付担当者を設けて適切に対応している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6		・毎月の予定表の他に、HP、「【ふらわーずだ・よ・り】」を不定期に配布し、情報発信している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	6		・職員に関しては、事業所入社時に、【誓約書】を交わし、「個人情報事業所以外に持ち出さない」「辞めた後も同様である」など、徹底している。事業所のデータについても、事業所外での使用を禁止している。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6		・個々の障がいの程度に合わせた配慮を行っている。	
非常時等の	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	3	・地域の児童館利用や催しへの参加はしているが、事業所から地域へ発信する行事は、まだ行っていない。	・地域の方を招待するするまでには、至っていないが、まずは、事業所の活動で地域に出向く事を増やし、知っていただくことを優先にしている。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4	2	・平成31年3月に緊急時対応マニュアル等を設置。年度初めで、保護者には配付している。	・課題)緊急時対応マニュアルを設置したが、今回、パート、アルバイトの職員より、設置しているかの有無すら知らないとの声が上がった。⇒改善点:パート、アルバイトの職員も周知できるように、誰もが分かる場所への緊急対応マニュアルの掲示やミーティングでの確認作業を行いながら、周知徹底を行う。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6		・年に2回、避難訓練を行っている。・現在までに【地震・火災・不審者】の避難訓練を行った。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	5	1	・契約時に確認。	
44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	1	・保護者からの連絡があった場合、対応(契約時に確認) ・保護者より要望のあった場合のみ配慮(アレルギー児のみ、意思の指示書提出をお願いしている)		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
の 対 応	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3	3	・ヒヤリハットノートを作成し、いつでも職員が共有できる状況にしているが、事例集は、作成していない。	・課題)ヒヤリハットノートを作成し、いつでも確認できる場所に置いているが、今回、パート、アルバイトの職員より、設置しているかの有無すら知らないとの声が上がった。⇒改善点:パート、アルバイトの職員も周知できるように、全体のミーティングを行いながら、置いている場所の確認+今までのヒヤリハットの確認作業を行いながら、周知徹底を行う。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	1	・事業所内研修を行い、職員同士共通理解をしている。 ・事業所外の虐待防止の研修も交代で受講。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5	1	・事業所内研修で、身体拘束についての理解は、全職員出来ている。 ・今の所、身体拘束が必要な利用者は、いない。	・今後、必要なお子さんに関しては、契約時に身体拘束についての同意書を検討していく。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。